広報おおいしだ 2019／8 No.758

別冊 おおいしだものがたり
～資料館資料編～

■近岡善次郎作『緞帳原画』

『日本遺産「山寺と紅花」追加認定記念企画展　描かれた最上川』展より

ただ今資料館では、『日本遺産「山寺と紅花」追加認定記念企画展　描かれた最上川』展を開催中です。この中から、近岡善次郎作『緞帳原画』をご紹介します。

この「緞帳」とは、以前は福祉会館のホールで使用され、現在も虹のプラザの多目的ホールに設置されています。緞帳が紀文食品の寄贈による縁から、原画は大浦公民館に贈られていました。この度、資料館へ寄託いただき、最上川を描いた作品であることから今回の企画展での展示となりました。

新庄市に生まれた近岡善次郎は、旧制新荘中学校（現新庄北高校）を卒業後、川端画学校でデッサンなどの基礎を学びました。その後文化学院美術部にて石井柏亭、有島生馬、山下新太郎らに師事し、洋画を修めます。昭和３１年には文部省留学生としてパリの美術学校に入学し、欧州各地を巡って風物を描きました。帰国後は師の石井らが創立した一水会員となり、広く公募展で多くの受賞作を残しています。

近岡善次郎の作品といえば、明治期の洋風建築を描いたシリーズや、最上三十三観音の連作が思い出されます。これらは、端正な線と水彩絵の具による淡い色彩で表されます。水彩で描かれた作品は他にも、人物や風景などがあり、いずれも写実的な表現が中心です。

しかし、近岡の作品の中には、必ずしも写実によらない大胆な構図と強い色彩によるものがあります。その一例が、JR仙台駅の改札前にあるステンドグラスです。伊達政宗と松島にかぶさるように、七夕飾りを大きく配置した鮮やかなステンドグラスは、一度は眼にしたことがあるのではないでしょうか。公募により『杜の賛歌』と名付けられたこのステンドグラスの原画は、近岡の手によるものです。これはあくまで原画を担当した例ですが、水彩画の表現とは異なる、力強くもどこか幻想的な表現は、緞帳原画に通じるものがあります。この手法をとる近岡の作品の多くは、東北の祭りや伝説、風土を題材にしており、緞帳原画もこの一連の作品群に連なるもののようです。

改めてこの原画を見てみましょう。構図の基本は大橋を上流から眺めた景色でしょうか。川の上を花笠踊りの女性たちが練り歩きます。それらを画面中央よりの半月が煌々と照らしています。雪と着物の白、山と川の青、笠の紅花の赤、そして月の光の黄色が鮮やかに映えます。色彩が鮮やかなことに加えて、月の光の環は強く表現され、川の流れや踊り子たちの動きがあり、賑やかなはずが、どこか時が止まったかのような静的な印象さえ受けます。

『日本遺産「山寺と紅花」追加認定記念企画展　描かれた最上川』展は10月20日（日）まで

楽がき帳

毎年、大石田まつりが近づくころ体のどこかを痛めています。おととしは両足のかかとが腫れ、去年は膝痛。今年は、腰でした。今年は維新祭踊れないかもと思うような痛みに加え、暑さのせいか胃腸の調子も落として、体重がかなり落ちました。図らずもダイエットに成功です。もうすっかり良くなって無事に踊ることができ、食欲も戻りましたが、年々衰える体にへこんでいます。

大石田まつりも終わりましたが、今年はまだ暑い日が続くようです。皆さんも体調管理には十分お気を付けください。

（あ）

町の人口 令和元年８月１日現在

世帯数	2,351 戸	（＋1）
総人口	7,019 人	（－9）
男	3,448 人	（－7）
女	3,571 人	（－2）

（７月中の異動）

出生	２人	転入	７人
死亡	９人	転出	９人

※この数字は外国人数も含めた数字です。

◇編集・発行　大石田町総務課
〒999-4112　山形県北村山郡大石田町緑町1番地
☎0237-35-2111　FAX 0237-35-2118
◇印刷／寒河江印刷㈱